



毛呂山町武蔵空手道武州会

みんなで空手を楽しもう!!



空手は、厳しいものと思われがちですが、私たち毛呂山町武蔵空手道武州会の稽古では、基本・型などの「基本の部」と大会を目標とする「選手の手」とを分けて指導を行っています。

入門する子どもたちにとって、目標はさまざまです。基本の動きを上手になりたいと思う子と大会で勝ちたいと思う子とは目標が違います。そこで、最初は空手を楽しむことから初め、段階を経て空手を学んでいけるように指導を行っています。心身の成長や稽古の鍛錬で身に付けた体力、強い意志、稽古を頑張り続けている自信によって、ほかの稽古の内容にも挑戦するようになります。また、毎年一年の上達の確認や一人ひとりの心身鍛錬の場として、演武会や型の大会を行っています。



ほかに、専門家による



るスポーツに関する講演会やキャンプなどを開催し、空手以外のことも学べる場を作っています。

「あいちなど日常の礼儀や言葉遣いを身に付ける」、「基礎的な体力をつける」、「仲間を大切に、思いやる気持ちを育む」ことを目的にして日々、仲間とともに稽古に汗を流しています。心身ともに鍛えたいとお考えでしたら、ぜひ私たちの仲間になりませんか。お待ちしております。

練習日 毎週金曜日午後6時30分～8時

場所 毛呂山中学校武道場

会費 月額1000円、入会金2000円(保険、フッペン代)

問合せ 毛呂山町武蔵空手道武州会

☎090-2466-7238 小室

毛呂山歴史散歩
文化財シリーズ 231
どうやました 堂山下遺跡出土の大甕



堂山下遺跡出土の常滑焼の大甕

歴史民俗資料館常設展示室の中世のコーナーの一角に、高さが90センチメートルほどもある巨大な焼き物が展示してあります。川角地内堂山下遺跡から出土した常滑焼の大甕です。

常滑焼は、硬質な焼きと褐色の器面が特徴で、現在の愛知県常滑市周辺(知多半島)で平安時代の終わりごろから生産されはじめました。特に鎌倉時代から室町時代にかけて最

も盛んに作られ、鎌倉をはじめとする全国各地に大量の製品が流通しました。堂山下遺跡で発見されたこの大甕も、常滑焼最盛期の14世紀後半に作られたものと見られています。

ところで、なぜこのような常滑焼の甕が堂山下遺跡から出土したのでしょうか。展示されている大甕は、長方形をした深さ20センチメートルほどの浅い掘り込みから発見されました。掘り込みの周囲には柱を建てるための深さ30センチメートルほどの小さな穴が6か所掘られており、上屋がついていたものと思われます。この遺構の性格を考えると、参考となるのが、中世の風景を現在に伝える「一遍上人絵伝」の中に描かれた中世の市(備前福岡の市)の場面です。この場面では、低い柱を地面に建て、板葺き屋根をのせた簡単な建物の下に備前焼の大甕を並べている様子が描かれています。堂山下遺跡でも市で甕が売られることがあったのかもしれませんが、また、水甕として日常的に使われたことも考えられます。

川角地内では、中世の寺院、崇徳寺跡の発掘調査が進められており、板碑が多数出土しています。この崇徳寺跡の発掘調査や今回紹介した堂山下遺跡の調査成果の積み重ねは、いまだ不明な部分の多い鎌倉街道と中世「苦林野」の実態解明に繋がっていきます。